

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671000273
法人名	医療法人 微笑会
事業所名	グループホーム えがお
訪問調査日	平成20年4月16日
評価確定日	平成20年5月13日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4671000273
法人名	医療法人 微笑会
事業所名	グループホーム えがお
所在地 (電話番号)	指宿市十町2392-2 (電話) 0993-22-4090
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年4月16日

## 【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算	8人

## (2)建物概要

建物構造	木造防火サイディング張り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

## (4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2		2名	
要介護3	3名	要介護4		1名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 86歳	最低 71歳		最高 99歳	

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	今林整形外科、宮崎歯科医院、岩下眼科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市役所や消防署、警察署といった公共機関に近い市街地に位置している。近隣の方々は、日頃から挨拶を交わしておすそ分けをし合うような関係であり、いただいた野菜等が食卓を賑わす場面もよく見られる。地元の六月灯に灯籠を出展したり、子供みこしをホームに呼び入れることもあり、地域の方々との交流機会を積極的に持つよう取り組んでいる。職員の入れ替わりが少なく馴染みの関係が維持されているため、入居者にとって落ち着いた生活環境が維持されている。また、母体医療機関が同じ敷地内にあることで、日々の健康状態が管理され異常事態にも迅速に対応できるため、入居者やご家族は大いに安心して過ごすことができる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての役割を再検討して、ホーム独自の理念をつくり上げている。モニタリングの書式を新たに作成して記録に残し、介護計画書は居室に置いて職員が日常的に把握できるように工夫している。鍵をかけないケアの実践については、運営推進会議等で検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティングにて評価の意義・目的を説明しており、管理者を中心に自己評価票を取りまとめた上で、代表者による最終確認を受けている。今後は全員で自己評価に関わり、サービスの質向上について、職員一人ひとりが模索していく姿勢が望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に実施しており、ホームの現状について、それぞれの立場から様々な助言を貰っている。議題によっては、警察や消防の職員の参加もあり、専門的な助言を受けている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の生活状況については、ホームたよりを送付したり、面会時に記録物・写真を使い説明しており、遠方の方には請求書と共に近況を記した手紙を添えている。金銭管理報告は、出納内容に領収書を加えて確認を受けている。意見箱が設置されているほか、ご家族には日頃の電話や面会時に意見や要望を尋ねたり、年2回の家族会の席で、ホーム側からの報告に加えてご家族からの意見をいただいている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者が地域の自治会へ加入することで、ホームへも回覧板が届いて近隣住民との繋がりが持たれ、おすそ分けをし合うような仲となっている。また、地域行事へも積極的に参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスとして、住み慣れた地域でその人らしい生活の継続性を支援することを意識した、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りでの唱和や毎月のミーティングの際に、理念を意識した話し合いが行われ、その実践について職員全員での確認作業がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者が地域の自治会へ加入することで、ホームへも回覧板が届いて近隣住民との繋がりが持たれ、おすそ分けをし合うような仲となっている。また、地域行事へも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価において指摘された課題については、改善に向けて取り組まれている。今回については、管理者を中心に自己評価票を取りまとめた上で、代表者による最終確認を受けている。	○	自己評価に職員全員で積極的に関わった上で、サービスの質向上について、職員一人ひとりが模索していく姿勢が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に実施しており、ホームの現状について、それぞれの立場から様々な助言を貰っている。議題によっては、警察や消防の職員の参加もあり、専門的な助言を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が近いという利点を活かして、困難事例があれば窓口へ出向いて相談したり、母体法人の行事へも参加してもらうなど、日常的に顔の見える関係がつけられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の生活状況については、ホームたよりを送付したり、面会時に記録物・写真を使い説明しており、遠方の方には請求書と共に近況を記した手紙を添えている。金銭管理報告は、出納内容に領収書を加えて確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置されているほか、ご家族には日頃の電話や面会時に意見や要望を尋ねたり、年2回の家族会の席で、ホーム側からの報告に加えてご家族からの意見をいただいている。	○	ご家族に対して、内部・外部を問わず相談窓口について繰り返し説明を行い、些細な意見や苦情も記録して、運営に活かすことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は少なく、馴染みの関係が維持されるように取り組んでいる。職員が替わる場合には、日勤業務で十分に時間をかけて入居者との関係づくりを行った上で夜勤業務を行うなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や外部研修会への参加により学習の機会を持ち、参加していない職員へも報告書等を活用して共有が図られている。	○	各職員の立場・経験・習熟度等を考慮して、段階的に育成できるような研修計画の立案に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム協議会へ参加して意見交換を行うなど、地域のグループホームとのネットワークづくりが行われている。	○	職員や入居者を含めたホーム相互の交流機会をつくり、さらなるサービスの質向上へと取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の申し込み相談の際に見学を勧めて、ホームの状況を理解していただき、入居後しばらくは、ご家族になるべく多めに面会に来ていただくようお願いするなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員からの一方的な関わりでなく、テーブルを囲んで入居者と会話する中で、思いや楽しみに共感し、共に支え合い分かち合う関係がつけられている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とお茶を飲む場面など、日常生活の中で何気なく発した言葉や様子を記録して、入居者の思いや意向を職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの中で入居者・ご家族の意向をとらえ、職員間でのミーティングを経た後に介護計画が立案されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	要介護認定期間に合わせて、入居者・ご家族の意向を確認し、現状の見直しを行い、介護計画を再作成している。作成された介護計画は居室にも置かれている。	○	目標の設定期間や状態変更時に合わせてタイムリーな計画の見直しを行い、入居者・ご家族も含めた話し合いの機会を持つことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療面において、定期受診の支援や医療連携体制における看護師による毎週健康チェックが行われている。ホームで完結できないことについては、母体医療法人によるバックアップ体制が整備されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援が行われ、診療内容や今後の方針等について確認されたことをご家族へ報告している。必要に応じて、専門科の受診にも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人・ご家族と重度化へ向けた意思確認が行われ、かかりつけ医へも報告を行っている。また、状況の変化に応じてその都度方針の変更がないか確認している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳や羞恥心に配慮したケアを行うようにミーティングで話し合われており、記録物の記載の方法や保管方法にも十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでのスケジュールはあるものの、入居者の意向や状態を考慮して、食事や入浴等のタイミングを変更したり、個別性のある対応を行うように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを理解して季節毎の旬の食材を用意し、その時々合ったメニュー構成となっている。食事の準備や後片付けには、力に応じて入居者も参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者ごとに入浴日が指定されているが、毎日でも入浴できる体制がとられている。拒否的な方に対しても、無理強いせず自然に入れるように取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を聴取し、これまでの習慣・経験・楽しみごとを日々の生活プログラムに取り入れており、本人の持っている力をなるべく引き出せるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天候、入居者の状態等を見極めながら、ホームの敷地内や外周を散歩したり、重度の方でも庭先まではお連れできるように取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を認識しているが、落ち着かない状態の入居者がおられる場合に、止む得ず玄関の施錠を行うことがある。	○	落ち着きのない状態の方に対するケアのあり方について、医療・福祉・行政等あらゆる専門機関との話し合いの機会を設けて対応すると共に、他の入居者への心理面の配慮が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を実施し、誘導方法・避難器具設備点検・使用方法について消防署より指導を受けている。近隣住民の方々には、災害時の協力が得られるように話し合いがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食物アレルギーや嗜好を確認の上で、母体法人の栄養士が基本的な献立を作成しており、一日の摂取量も記録されている。状態の悪い方に対しての体制も十分整備されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく家庭的な雰囲気があり、台所やトイレ、浴室といった設備も使い易い高さや広さとなっており、居心地よく過ごすことができるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた小物類が持ちこまれ、ご家族の写真や自ら創作したものなどが飾られており、入居者それぞれの居室づくりがなされている。		